

## 平成27年度 社会科教育にかかわる現状と課題

部長 岡 崎 登

### 1 社会科教育の動向

#### 【上越地区】

上越地区では、上越市、妙高市、糸魚川市それぞれで市単位の授業研修会が実施された。上越市では、公開授業を通して、今日的な課題である「地方自治」を取り上げ、積極的に参画する態度や合意形成のスキルを高めた。糸魚川市では、「実感に支えられ、自ら学ぶ社会科教育」をテーマに授業が行われ、対話をキーワードに話し合いの活発化の工夫に取り組んだ。妙高市では「地域に根差した授業改善」をテーマに指導案作成ワークショップや授業公開を通じた研修が行われた。

#### 【中越地区】

中越地区では、意欲的に追究する子どもの育成や地域教材を活用した授業改善に取り組んだ。長岡市三島郡では、資料やゲストティーチャーを効果的に使い、問題意識をもたせ、自分の意見をもって活発な意見交換がなされた。加茂市・南蒲原郡では、伝統工芸品である加茂桐箆笥の生産工程を見学し、教材化を図っている。小千谷市では、社会部員が学年別に分かれ、授業改善について話し合い、指導案の共有化と自校化に取り組んだ。魚沼市では、小中が連携し、合同で地域巡見を行い、小学校の授業研究に中学校教諭が参加し意見を交わしていた。

#### 【下越地区】

下越地区では、地域巡検・講演会等により教師が地域を知り、地域素材を教材化し、社会科授業に生かせるように努めていた。五泉市や胎内市、阿賀野市では、地域教材の教材化・自校化に努め、地域に対する誇りと愛情を育てている。佐渡市では子どもたちが楽しんで学習できるようにクイズブック等を作成した。新発田市や村上市では、資料の効果的な活用を通して、思考力・表現力の向上を目指した授業研修が行われた。

#### 【新潟地区】

新潟市では、「社会的事象を多面的にとらえて理解する児童の育成」を研究主題に市の指導計画に基づき市内4つの地区に分かれた授業研修が行われた。多様な視点からの話し合いが社会的事象の多面的とらえにつながる。そのために課題設定や児童の考えを可視化していくことの重要性が明らかになった。

### 2 社会科教育の課題

- 社会科の学力向上を図るため、地図や統計などの資料から必要な情報を読み取り、社会的事象の意味を解釈し事象の関連を説明するなど、活発な対話活動を通して、授業を改善する。
- 子どもが意欲的に追究したくなる授業を目指すため、地域素材を活用した教材開発に努め、その有効な提示方法を研究する。
- 小・中学校間の校種間連携を図り、一貫した指導計画や授業づくりを行う。